

渡辺 みきこ（わたなべ・みきこ）

1、プロフィール

詩人。東京の詩誌「花 * 現代詩」同人。夫渡辺貞一の影響もあって、はじめ絵を描いていたが後に詩作に向かう。

<生没>

1926(大正 15)年4月 19 日～1996(平成8)年3月 12 日

<代表作>

詩集『冬の村』

<青森との関わり>

下北の東通村で生まれる。就学前父病死。母の実家がある浪岡町で暮らす。弘前高女卒業。後に東京で生活。

2、作家解説

本名は美喜子。昭和 18 年弘前高女卒業。

最初絵に関心があり、学ぶ。

夫渡辺貞一は県出身の洋画家の1人である。その後絵の勉強を続けるが、40歳過ぎてから詩作に入る。詩誌「花 * 現代詩」の同人となる。10年のちに詩集『冬の村』を刊行。村野四郎の詩に感銘を受け、その影響をうける。

長い東京在住の中でも、詩人自身の中に静かに抱える北方回帰性を最後まで追い続けた。絵のあとに出会った詩に「詩は一生のこと」と心を据えて詩作した。

「すばる」等にも原稿を載せる。

夫が生前行けなかった岩崎へ自分が代わりに行くという約束を果たすために出かけた紀行文「十二湖巡礼」(東奥日報)は繊細な表現で綴られ、詩人渡辺みきこの本質が窺える。

3、資料紹介

○『冬の村』

図書

1977(昭和 52)年 11 月 8 日

215mm × 155mm

渋い緑の箱入本。白い布装。前半 10 編は最新作で、後半 15 編は比較的早い時期の作品。「冬の村」は北方には違いないが、必ずしも特定の地をさすものでなく、魂の故郷・存在のふるさとという普遍性を持つという意図を、知人に宛てた手紙の中で詩人は明言している。